【関関同立 即日入試分析＆出題予想2022】

《2/2 立命館大学 全学統一方式》

★本日(2/2)の入試分析★

Ⅰ 《冷戦後の核問題と安全保障体制》

明日の予想範囲として準備していた核問題系が本日登場！「中国共産党」や1995年の「バンドン会議」、ソ連のスロー版である「平和共存」、「ベルリン」の壁で知られるドイツの分裂、1962年の「キューバ危機」、米ソ間の「デタント」（＝緊張緩和・雪解け）などが空欄補充で問われた。「INF（＝中距離核戦力）全廃条約」は出題予想プリントをやっていれば問題なし🎯「マーシャル・プラン」や「北大西洋条約機構（＝NATO）」は頻出事項。1961年の「非同盟諸国首脳会議」や CSCE が発展した「OSCE（＝欧州安全保障協力機構）」、「新冷戦」は難解か。選択問題は、1989 年の「東欧革命」についての選択肢が正しい。それぞれ「ヤルタ会談」、「統一ドイツ」が誤りを見分けるポイント。

Ⅱ 《消費活動における市場経済の仕組み》

本日の出題予想から一部的中といえる問題であった🎯「超過供給」や「均衡価格」、「価格の自動調節作用」は容易であった。「トラスト」・カルテル・コンチェルンは3点セットなら問題なし。「プライス・リーダー」や「管理価格」「価格の下方硬直性」、「持株会社」などは出題予想プリントから大的中🎯「非価格競争」や「公正取引委員会」、「財閥解体」も難しくない。「不況カルテル」や「再販売価格維持制度」は少し難解か。需給グラフは簡単。「い」は供給側の問題。「代替品がある商品は価格弾力性が大きくなる」ことは最低限クリアしよう。「い」は「外部経済」の引っ掛け。市場を通さないのが「外部経済」のため、この例は「う」。「公害」は「外部不経済」の例となることは出題予想からわかったことだろう。

Ⅲ 《民主主義のあり方と選挙、三権分立》

初日の出題予想から流れ的中🎯また、三権分立についても部分的中といえる🎯「日本道路公団」はかつて存在していた特殊法人。アメリカの三権分立についてはプリントから的中🎯「拒否権」、「教書」、「上院」の「承認権」、連邦最高裁判所の「違憲審査権」は全正解したい。「特定非営利活動促進法」は難解か。「ポピュリズム」や「ビッグ・データ」は勝負を分ける問題。正解しておきたい。選挙に関する選択問題は一択で「あ」を選ぼう。「実用新案権」は難解だが、ブランドや等の「商標権」、外見やデザインに関する「意匠権」、「知的財産等高等裁判所」は答えたい。

©北村瑞貴の政経塾2022

★明日（2/3）の出題予想★

Ⅰ 《社会保障のあゆみ》

イギリスのエリザベス救貧法からの社会保障の歩みや、アメリカの社会保障法など、海外の事柄についても出題可能性がある。日本国内との比較をはじめとして、年金などとの融合問題となることが予想される。社会福祉についても、バリアフリー・ユニバーサルデザインなどの近年特有の語彙が出題される可能性も否定できない。幅広く社会保障に関して見直しておこう。

Ⅱ 《国際経済の歩み》

国際経済における金融政策についての問いが出題されると予想する。1944 年に結ばれたブレトン・ウッズ協定をはじめとして、1945 年のIMF（国際通貨基金）発足、1948 年のGATT（関税及び貿易に関する一般協定）発足、1971 年のニクソン・ショック、同 71 年のスミソニアン協定、1976 年のキングストン合意、1985 年のプラザ合意、1987 年のルーブル合意などの国際経済におけるターニングポイントに注目しておく必要がある。

Ⅲ 《グローバル化に伴う環境・エネルギー対策と循環型社会、SDGs》

まだ、環境に関しての出題見られない。日本の公害問題から京都議定書、パリ協定の内容などが要注意。地球サミットなどにも注目しておこう。2001 年の環境省への格上げも重要。また、2015 年 9 月の国連サミットで採択された SDGs（＝「持続可能な開発目標　17 個の分類）は狙い目だ！環境整備を中心に問う問題となるだろう。

©北村瑞貴の政経塾2022